略　　歴

【氏　名】松本　敦子（まつもと　あつこ）

【所　属】康保会玉淀園

【職　歴】

1977 年	立正大学保育専門学校卒。
	康保会玉淀園に入職現在に至る。
2004 年	日本福祉教育専門学校社会福祉士通信課程修了
現職	副施設長・心理相談室長・ファミリーソーシャルワーカー、カウンセラー

【玉淀園の歴史】

第二次世界大戦の本土空襲により、焼け野原と化した東京に仮小屋のようなものが立ち始めた頃、棄児が増えその約 80%が上野・浅草であった。康保会は浅草山谷のスラム街に近く、康保会病院は生活保護医療救済病院であった為、毎日のように棄児が運び込まれて来た。病院での養育に限界を感じた初代理事長は、棄児だけを収容する施設を計画し、昭和 22 年 10 月に埼玉県寄居町に乳児院を開設した。

当時はアメリカの占領下にあり、GHQ や多くの方々の支援を受け開園する事が出来た。昭和 23 年、児童福祉法の施行と共に東京都と埼玉県の認可を受け措置と言う形で乳幼児を保護する事ができる様になった。当時入所してくる子ども達は、栄養状態も悪く、入所してすぐに亡くなる児も多く、現在も玉淀園墓地に 16 人の乳幼児が無縁仏として埋葬されている。開園当初は、戦後の混乱期という事もあって入所の主訴は、孤児・捨て子・貧困等が多くの割合を占めていた。事業を開始し 74 年となった現在、入所理由も大きく変化し、虐待や保護者の精神疾患による入所が大きく増加している。

現在玉淀園では、0～4 歳までの 50 名の子ども達が入所しており、医療的ケアの必要な児・病虚弱児・発達に問題のある児が半数以上を占めているが、子ども達は毎日元気に生活を送っている。